

平成30年度 第1回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時** 平成30年9月21日（金） 午後4時～午後4時45分
- 2 場所** 宇都宮市役所13階 教育委員室
- 3 出席者**
(構成員) 佐藤市長
水越教育長，大場委員，伊藤委員，山田委員，清島委員
(関係者) 手塚副市長，吉田副市長
(事務局) 菊池教育次長，栗原学校教育担当次長，秋山教育企画課長，
富山総務担当主幹，鈴木学校教育課長，松本文化課長，今平文化課主幹，
田上教育企画課長補佐，本田教育企画課企画G係長，渡邊教育企画課総括，
東原学校教育課指導G係長，金田学校教育課指導G指導主事
- 4 傍聴者** 1名
- 5 議題** 郷土への愛情や誇りの醸成に向けて ～「宇都宮学」の創設について～
- 6 議事の内容**
- (1) 開会**
菊池教育次長 ただいまから，平成30年度第1回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます，教育次長の菊池でございます。よろしくお願いいたします。
- (2) あいさつ**
菊池教育次長 はじめに，佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。
- 佐藤市長あいさつ
- 菊池教育次長 ありがとうございました。
続きまして，水越教育長からごあいさつをお願いいたします。
- 水越教育長あいさつ
- 菊池教育次長 ありがとうございました。
ここからの議事の進行については，市長にお願いしたいと思います。
佐藤市長，よろしくお願いいたします。
- (3) 議事**
佐藤市長 今回は，「郷土への愛情や誇りの醸成に向けて」をテーマに意見交換を進めてまいりたいと思います。「郷土への愛着や誇りの醸成に向けて」は，まずは本市の伝統や文化，産業などを体系的に整理し，小学校や中学校でそれを教育していくことが何より重要だと思えます。そこで，現在，教育委員会で検討している「宇都宮学」の構想案につきまして，ご説明していただいた上で，意見交換を行いたいと思います。

それでは事務局から説明をお願いします。

「宇都宮学」の構想案について（学校教育課長説明）

佐藤市長

それでは、教育委員の皆さまから「宇都宮学」にかかる考えや意見、「郷土への愛着や誇りの醸成」のために必要なことなど、それぞれのご意見をいただきたいと思います。

大場委員

今回、「宇都宮学」の資料集が作成されることは大変うれしく思います。私事になりますが、両親が宇都宮市出身という縁もあって35年前から宇都宮市に住んでおり、今で言うダブルプレイスを行っています。はじめ宇都宮市に住み始めた時は、東京へのアクセスがよい、水がおいしい、日光や那須に行くのに便利な場所であるといった程度の愛着でしたが、宇都宮の歴史講座や市民講座に参加して宇都宮のことを知るにつれて、どんどん宇都宮が好きになってきました。やはり好きになるためには知ることが最も大切であると考えています。私の場合は色々な講座に行き、宇都宮について知ったことがあります。資料集として宇都宮の良さがまとまったものができることはありがたいことだと感じます。

また、郷土資料集の作成方針で、「学習や授業で使い終わってもずっと持ち続けたい宇都宮学の教科書」とありますが、子どもだけでなく、大人も見ても楽しめる、これを持っていけば宇都宮の良さを知ることができるものになればと思っています。私の息子が小学4年生のとき、社会で宇都宮の副読本をもらって以来、宇都宮に興味を持ち、さらに社会科見学に行つて宇都宮に対する考えが変わったようです。小学4年生といえども感動や驚きがあり、それをきっかけに宇都宮への愛着が芽生えたようで、今でもその副読本は持っているとのことでした。今年度の本市の学習状況調査の中でも、地域と関わる学習を行ったり、地域や社会について考えたりするという項目に対して、多くの児童生徒が肯定的な回答をしていました。そう考えると、子どもたちにとって魅力的なものを作っていくことが必要だと感じました。

伊藤委員

私も大場委員と同じで、もとは東京出身で、I（アイ）ターンにより宇都宮に住んでいますが、宇都宮の印象については、バランスが取れている街だと思います。中心部は都市型でありつつ、周辺には農村地帯や観光箇所もありますし、生活のしやすさ、教育の良さもあり、外から来た者としては、とても良い場所であると感じています。ところが「宇都宮への愛情や誇りに係る調査」によると、愛着を持つ市民が68%、誇りを持つ市民が42%であり、正直そのような程度かと思っています。確かに、中に住んでいる分には愛着や誇りは感じにくいかもしれませんが、外から来た場合や、一旦市外に出て中を見た場合などに、その良さが分かってくるのかもしれない。子どもの頃から宇都宮の歴史や良さを学び、宇都宮はいいところであるという気持ちを持ってもらうことが大切だと思うので、そうい

った意味でも「宇都宮学」の構想は面白いと思います。

また、郷土への愛着は、食べ物からも生まれてくると思います。もちろん餃子もおいしいですが、宇都宮の新米も大変おいしいです。こうした宇都宮のお米を子どもたちが食べる機会はあるかと聞いたところ、何らかの機会でお米を提供しているという話を聞いて安心したところです。こうした食べ物を通して、郷土愛の醸成や宇都宮の良さを感じてもらえるきっかけにもなるかと思えます。ぜひ宇都宮に住んでいる方には、どんどん宇都宮の自慢をしてもらいたいと思えますし、宇都宮を誇りに思っていることを言えるということはとても大切だと思えますので、そういったことができる子どもたちを育てていきたいと思えます。

山田委員

私はずっと宇都宮市に住んでいますが、宇都宮の良さに気付くことは、ヒントがないとなかなか難しいと思えます。最終的には子どもたちが宇都宮の良さを自分たちで見つけていくことが重要だと思えていて、「宇都宮学」を学校で学んでいくことで、そこでヒントを得て、その結果として宇都宮の良さを自分たちで見つけ、そして自分の口で宇都宮の良さをアピールできるようにしていくような方向性を出していくことが一番良いと考えています。また、「宇都宮学」は学年で系統的に学んでいくものとなっていますが、例えば小学生と中学生の交流で、話し合いの場を設けることも有効な手法だと思えますので、自らの発見や気付きを促していくことが大切だと思えます。

清島委員

よく海外に行って、住んでいる場所がどんなところか、どんなものがあるのかを聞かれて、それに答えられないという話を聞きます。自分たちとしてはある程度分かっているつもりでいても、そういった場面できちんと伝えられることができないことも多いと思えます。子どもたちには宇都宮の良さなどを伝えられるよう、その力を身に付けながら、世界に羽ばたいてほしいと感じています。そういった意味でも、「宇都宮学」には大きな期待をしています。

「宇都宮学」は体系的に行われるものですので、様々なものを加味しなければならぬと考えていますが、いろんな団体で提供しているもの、リソースが数多くあると思えますので、それらをうまく利用しながら「宇都宮学」を構成させていくことができると思います。また、商工会議所で「宇都宮検定」も実施しているかと思えますが、そういったものと連携が図れば良いと考えています。

水越教育長

我が国の伝統・文化・歴史を尊重することが教育基本法に組み込まれてから、こういったものを大切にする教育がよく行われるようになりました。そうした中で、まずは身近な郷土に対する理解、愛着、それを大切にするということから始まらなければならぬと考えています。今の子どもたちは、総合的な学習の時間の影響もあり、身近な地域のことについてはだいぶ知るようになりました。ただし、先ほどもありましたが、外に出てみた

り、外からの人に言われて気付くことはあっても、いざ宇都宮のことについて、人に説明したり、自慢したりするなどはなかなかできないことが多いです。それは宇都宮の良さを知らないこともあります。それらを体系的に学ぶ場がなかったからだと思います。小学校3、4年生では「わたしたちの宇都宮」という副読本を活用して学ぶ機会があったり、教育委員会が作成した「宮っ子うつのみやナビ」や修学旅行で百人一首との関係を知るためのパンフレットを作成したりしてきましたが、それらは単発的な取組となっています。やはり、宇都宮の良さや伝統・文化・歴史などを知るためには、体系的に学ぶ機会が必要であると考え、今回独自に「宇都宮学」を創設することになったものですが、最終的には大人が欲しがらるような、大切にするような資料集を作成し、体系的に授業で教えていければと思っています。そうすれば、郷土への愛着や誇りを持ち、自分たちで宇都宮を作っていく人材の育成に繋がっていくものだと考えています。

佐藤市長

様々なご意見をいただきましてありがとうございます。

これまで宇都宮のことを体系的に学ぶ機会や教材がなかったということで、今回「宇都宮学」を創設することになったことは、大変良かったと感じており、また、宇都宮の風土や文化に気付いたり、愛着や誇りを醸成することについては、本来なくてはならないものだと思います。それが人間力の高い人材を育成していくことに繋がってくるものではないかと思いません。また、宇都宮のことを体系化していく中で、本市の魅力として、これからのまちづくりであるネットワーク型コンパクトシティやLRTなどを位置付けていただいております。まさしく歴史・文化だけでなく、まちづくり全体を網羅していることに素晴らしさを感じたところです。伝統・文化だけでなく、宇都宮の魅力や自慢できるものなどは、市民の財産として持つておいた方がいいと思いますし、いつまでも持っていたい資料集を作成するという事なので、それは市民のバイブルになるものだと思います。

また、作成後は適宜見直しを図ることなので、見直しの中で、ぜひ宇都宮の成長度合いも含めてもらいたいと思います。宇都宮がどう変わったのか、例えば今は大谷に力を入れていますので、10年、20年先にそれがどう変わったのか、また、駅東口整備やネットワーク型コンパクトシティによる地域拠点の変化や、ネットワーク型コンパクトシティを支える公共交通の変化など、人やモノの流れ、産業の変化もあると思いますので、そういったものを追いながら、付け加えていただきたいと思っています。そのためには、教育委員会だけでなく、まさしく各部局横断的にオール宇都宮で取り組んでいただければと思います。

ここ数年間は、小学校に行って授業を持たせてもらっており、この「宮っ子うつのみやナビ」と同じような内容のものをスライドで紹介していますが、例えば、宇都宮が住みやすさランキングが1位であることや、消費量も餃子だけでなく、煎餅や寿司、プリンも多いなどといった話をする、子どもたちの驚きの声がとても大きいです。驚くことで授業もあっという間に終わり、内容としても面白いと思いますし、何よりも驚きがあるから

忘れないものだと思います。そういったことを「宇都宮学」に盛り込んでもらいたいと思いますし、誰もが見て分かりやすいということが大切なので、写真や絵を活用するほか、子どもから、通な大人まで面白いと思うような内容に充実させていくことが重要だと思います。それを大人から子どもまで、市民がしっかりと共有し、どんどん宇都宮の自慢をしてもらう、そして宇都宮の良さを全国に発信することができれば、地方都市が疲弊している中で、「宇都宮学」が地方創生のモデルになるといいと思います。

佐藤市長

それでは、ここから先は、皆さんの意見などを基に、自由に意見交換をしてみたいと思います。

佐藤市長

今回テレビで放映される「ブラタモリ」で出てくるような新しい発見も入れていただければと思います。「宇都宮を作ったことこそが江戸幕府の狙いであり、その謎を解く手がかりとして日光東照宮がある」とのことですので、歴史を通して分かった宇都宮の位置付けだったり、興味に繋がるようなものを取り上げてもいいのではないかと思います。また、宇都宮で起こった「浄瑠璃坂の仇討ち」の話もあります。「大石内蔵助」をはじめ、「元禄太平記の仇討ち」などは、「浄瑠璃坂の仇討ち」を模倣したと言われていますが、こうしたこともすごいことだと思います。

水越教育長

意外に知られていないエピソードは、掘り起こせばたくさんあります。

佐藤市長

餃子にしても、ただ食べているだけでなく、食べられる所以があります。そういったことに気付いたり、興味を持つ方も実際にいますので、そういった疑問に答えられるようなものになるといいと思います。

伊藤委員

私のところには司法修習生が来ることがあり、外から来た人にはまず大谷を案内しますが、やはりあの地下の大空間を見ると非常に驚かれます。最近では大谷石自体を知らない方もおりますが、そういった意味でも、大谷の地下空洞に行ってみて体験させるような取組なども有効であり、そこから興味を持ってくれる方も多いのではないかと思います。

水越教育長

身の回りには、塀や蔵などの多くの大谷石がありますが、それが当たり前になっているので、何とも思わない方もいらっしゃいます。今回、日本遺産の認定を受け、その素晴らしさについて認識を改めた方もいるかと思うので、そういった部分についても、資料の中で気付かせることができるようにしたいと考えています。

大場委員

身近にあるものは気付きにくいですし、わざわざ市内を観光して回ることもないですから、「宇都宮学」のようなものがあると分かりやすいと思います。

山田委員

あとは、市外から来た方たちに、宇都宮のお土産が出回らないことが残念に思います。最近では、大谷石の彫り物や宮染めなどがありますが、そういった伝統文化には担い手がおらず、普及されていないことも課題だと思います。企業を巻き込みながら、そういった伝統文化を存続させていき、身近な物として認識できるようになればいいと考えます。

大場委員

伝統は以前のを踏襲するだけではなく、そこから新しいものを作っていないと、伝統としては残っていないと思っています。今は宮染めには手ぬぐいが多いですが、やはりお土産でもらって喜ばれるような作品も作っていく必要があると考えています。

佐藤市長

確かに海外の方には手ぬぐいは喜ばれますが、国内では難しいかもしれません。ただ、宮染めの中川染工場さんも、来年から宮染めのシャツや浴衣を生産していくという話も聞いています。伝統工芸品には素晴らしいものがありますので、行政として守っていく手立てを行うことも重要だと考えています。

佐藤市長

「宇都宮学」については、総合的な学習の時間を活用して、小学校や中学校で学んでいくとのことですが、絵や画像をプロジェクタに投影しながら授業を行うことで、子どもたちも集中して学ぶことができるのではないかと思います。覚えるだけのものでは面白みがないので、工夫が必要だと思います。

伊藤委員

先ほども話にありましたが、エピソードなども織り交ぜるといいかもしれません。

水越教育長

今題材を洗い出しているところですが、結構な数があります。

佐藤市長

タイトルは「宇都宮学」にこだわらず、多少柔らかく考えてもいいと思います。

今後も色々なご意見をいただきながら、「宇都宮学」を創設に向けて取り組んでいただければと思います。

(4) その他

佐藤市長

次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

(特になし)

佐藤市長

それでは、進行を事務局に戻します。それでは、時間となりましたので進行を事務局に戻します。

(5) 閉会

菊池教育次長

市長，ありがとうございました。

以上で，平成30年度第1回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。